

連帯はばたき

連帯ユニオン
関西ゼネラル支部
宣 伝 部

第 81 号
2025. 06

明るく・楽しく・元気に活動し、産業別労働運動を確立しよう！

悔しさをバネに闘いを継続

6月7日、北区民センターで争議分会総決起集会が開催されました。当日は予想を大きく超える仲間が結集し、超満員で席に座れない参加者が現れる事態に至りました。ゼネラル支部からは26名以上の仲間が集まり、関生支部とトラック支部から24名、きょうとユニオンや北おおさかユニオン、なかもユニオンといった他労組からも7名の結集がありました。組合の組織力強化と抗議活動の活性化を目指す我が支部にとって、今回の集会はひとつの節目となるでしょう。これだけの結集を達成した当支部に課せられた今後の課題は、この力をいかに生かし、どのように争議を展開するかです。

戦い抜くことを表明する！

今回の主役となったのは6分会。現在すでに集中的な争議行動を展開しているY分会、Kパートナーズ分会、A整形外科分会の3分会に加え、S工業分会、N運輸分会、KM分会の3分会。当日の集会では、すべての分会の分会員が自らの思いを仲間の前で語りました。その言葉は会社や職場環境への憤慨に満ちたものです。契約打ち切り、解雇、自己都合退職の強要、業務の剥奪、いわゆる「追い出し部屋」への押し込み……彼ら他にも多くの仕打ちを会社から受けていましたが、そのうちすべての会社で共通していたのは、労働者の権利の剥奪です。具体的には、弁護士



による法律の一方的で恣意的な解釈と悪用による強迫、障がい者の就労に対する適切な対応が取られていないこと、労働組合活動を疎んでの不当労働行為、介護職場内で起きている暴行や虐待等の外部への告発に対する報復等、まさしく今日の労働者の直面する困難を反映したものです。

労働運動が停滞するなか、現在の多くの職場で経営者の独裁ともいえる状態が作り出されています。その結果、労働者の実質賃金は低下し続け、その他の労働条件も悪化しています。非正規雇用が4割近くを占めている中、非正規労働者は無論、正社員の雇用の安定も損なわれているのが実情です。報告してもらった6分会の争議の原因も、労働者の権利がどんどん削られて行っている状態を抜きには考えられません。そして、こうした状態を改善することこそが労働組合の役割です。

参加者は、現在抱えている6分会の争議を闘い抜くこと、必ず勝利すること、そして、それを通じて労働者の権利を回復していくことを確認し、集会を終えました。

【報告 / 書記長】

原発ゼロの日本を目指して声をあげよう

もうやめよう 危ない原発！大集会inおおさか

6月8日、「もうやめよう 危ない原発！大集会」がうつぼ公園で開催された。全国各地から市民団体・労働組合、また政党関係者など1200人が集会に結集した

集会は、オール福井反原発連絡会の林氏の司会で開会。初めに主催者として中寫哲演さんが挨拶。結集への労いの言葉と原発の危険性、原発再稼働阻止に向けた決意が述べられた。

新たな取り組みとして巨大なパネルを準備し「原発依存社会へ暴走する政府と電力会社にNOを！」と題する巨大紙芝居が披露された。参加者は巨大パネルを見つつ紙芝居に聞き入っていた。

各地から脱原発の声があがる

次に全国各地から結集した仲間からの現状報告が行われた。

六ヶ所村再処理工場を抱える青森からは中道氏が搬出の約束を守らない政府に対して怒りの声を、再稼働が行われた女川からは舘脇氏が再稼働のみならず乾式貯蔵施設の設置許可を与えた規制委員会に対して怒りの声を。愛知県からは原告訴訟を闘っている草地さんは裁判所が出した不当判決に対する怒りの声をあげた。能登半島から北野氏、福井からは石地氏、福島からは避難者である菅野さんがそれぞれの現状、決意が述べられた。

石破政権の原発政策にNO！

政党からの挨拶で社民党大椿ゆうこ参議院議員は、「石破政権は第7次エネルギー計画を閣議決定、原発を最大限活用するとしている。台湾では原発事故を教訓として5月17日原発ゼロを達成。事故から14年。違った道もあったと思う。社民党は一

貫して原発反対の声を上げている。再稼働阻止の声を共に上げていきましょう」と発言。そのあと、新社会党、日本共産党、緑の党、れいわ新選組の代表者からの挨拶があった。

労働組合からは平和フォーラム、全労連、おおさかユニオンネットワークから発言があり、おおさかユニオンネットワーク代表は「GX2040ビジョン、脱炭素は原発を再稼働するためのもの。だまされてはいけない」と声を上げた。

集会終了後、参加者は難波までの道のりをデモ行進。今にも降りそうだった雨も持ちこたえ、また若い参加者のコールに例年以上に多くの人々にアピールできたのではないかな。

「老朽原発再稼働阻止、原発ゼロ」の声を

事故から14年。いまだに廃炉の目途はたっていない。ひとたび事故が起これば制御することができない原発。老朽化が進んでいる原発ならなおさらだ。原発事故を教訓として脱原発を成し遂げたドイツそして台湾。子や孫たちの世代に負の遺産を残さないためにも「老朽原発再稼働阻止、原発ゼロ」の声をこれからも上げていこう。

【報告 / D執行委員】



日東電工株主総会で抗議の声 オプティカルハイテック労組との交渉に応じろ！

日本の大企業、日東電工の韓国子会社である韓国オプティカルハイテック社の工場閉鎖・大量解雇に対し、激しい争議が続いています。

政治も巻き込む問題に発展

韓国では、残虐な弾圧をはね返して 500 日を超える籠城闘争が続けられ、国会議長が石破首相に解決を求める書簡を送るなど、政治も巻き込みつつ闘いが大きく広がっています。

日本でも、東京と大阪を中心に、日東電工への抗議行動が続いており、昨年には大阪でオプティカルハイテック労組が結成されました。同労組は、おおさかユニオンネットワークに加盟し、日東電工の団交拒否について現在大阪府労働委員会で不当労働行為の救済を求めて争っています。また、今年 2 月から 3 月にかけては韓国からの遠征団が日本の支援団体・労組と共に日東電工本社前などで連日行動を展開しました。

日東電工へ怒りの声をぶつける

現地労働者の文字どおり命がけの闘いが、



韓国の政治や OECD の機関を突き動かして日東電工への包囲網を築いてきているなか、去る 6 月 20 日、グランフロント北館で、日東電工の株主総会が開催されました。その会場前で、韓国からの遠征団、おおさかユニオンネットワーク加盟組合、その他市民団体など 50 人以上が結集し、株主に対して、「日東電工は団体交渉に応じろ！」「日東電工は労働者の雇用を保障せよ！」などの声を届けました。

会長だけ株主総会に入れない暴挙に

株主総会で直接訴えるため、事前に株を購入していた数名が株主総会に参加しようとしたが、日東電工は、韓国オプティカルハイテック労組の支会長だけを、あれこれ理由をでっちあげて入場させませんでした。許し難い暴挙です。

韓国では、今もひとりの女性労働者が籠城闘争を続けています。猛暑を迎えるなか、命の危険すら危惧されます。一刻も早く解決するため、ここ大阪でも一層運動を強めていく必要があると感じました。

【 報告 / 副委員長 】

分会報告 職場環境の改善求め K分会

5月19日、社会福祉法人Kで働くAさんが労働組合に加入されました。Aさんが組合への加入を決めたのは、職場で経験した複数の問題がきっかけでした。

労働環境問題と組合加入の経緯

Aさんは、社会福祉法人Kで働き始めた当初から、業務内容や働き方について先輩職員に尋ねても、明確な指導が得られず、業務への自信が持てませんでした。このため、一度は退職の意向を職場リーダーに伝えたところ、リーダーの理解と配慮により、法人内の別の施設への異動することができ、新たな施設で心機一転、仕事に励み始めました。

しかし、この新たな職場でも、Aさんは衝撃的な現実を目の当たりにすることになります。施設利用者のなかには、様々な事情からそこで寝食を共にせざるを得ない方々がいて、職員が利用者から暴力的な振る舞いを受けることがありましたが一定の理解をしていました。しかし、暴力を振るう利用者のことや予防対策を知らされていませんでした。無意識のうちに暴力を振るう利用者に対して、防御策とは言え行き過ぎた暴力的な対応をしている職員を目撃してしまいます。

この状況に深い疑問を感じたAさんは、職員による暴力的な対応について先輩職員に相談しました。しかし、相談した職員をはじめ、同じ施設内で働く先輩職員たちは、Aさんの問いかけに真剣に耳を傾けず、具体的な解決策や助言を与えることはありませんでした。

さらに状況は悪化します。ある日、Aさん自身が作業中に施設利用者から何度か暴力を受け、怪我を負ってしまいました。このことを当時の施設のリーダーに伝え、返ってきたのは「我慢しなさい」という言葉のみ

で、何ら改善策は示されませんでした。それどころか、怪我の治療のために病院に行くことさえも止められてしまったのです。

また、施設で行われる会議が就業時間を過ぎて開催されていたにもかかわらず、時間外労働の手当が一切支払われないという問題も発生していました。

こうした状況が続き、Aさんは精神的に追い詰められ体調を崩し、休職を余儀なくされました。同時に心療内科への通院も始まったそうです。休職に関して施設に労災申請を求めたものの拒否され、さらには契約期間満了を理由に雇用契約を打ち切られてしまいました。

公共機関への相談と組合との出会い

施設の不誠実な対応と、利用者さんに対する社会正義の観点から、Aさんは堺市をはじめとする公共機関に改善を求め相談しましたが、なかなか状況は改善されませんでした。

そこで、インターネットで相談窓口を探していたところ、関西ゼネラル支部の相談ダイヤルが目にとまり、勇気を出して電話をかけたそうです。この時、ゼネラル支部の書記次長が親身になって相談に乗ってくれたことが、組合加入を決意する大きなきっかけとなりました。

粘り強く闘い続ける決意！

6月12日には第一回目の団体交渉が行われました。しかし、現時点では労使双方の主張がまだ噛み合っておらず、問題解決には至っていません。それでも、Aさんは諦めることなく、自身の労働環境の改善、そして施設利用者へのより良いケアを実現するために、今後も粘り強く取り組んでいく決意です。

【 報告 / H副委員長 】

～お知らせ～

一般部会・医療介護保育業種別部会会議にご参加を！

一般部会・医療介護保育部会の業種別部会会議を開催します。8月31日（日）の支部委員会にむけて、年間方針の確認、春闘の総括、秋闘の方針について話し合いを行います。一般・医療介護保育で働く全分会の参加をお願いします。

日時：7月20日（日）13時00分～15時00分

場所：ユニオン会館4階

大阪労働者弁護団

労働者・労働組合と弁護団の合同交流会にご参加を！

毎年恒例の交流会です。模擬事例などについてグループワーク形式での相談会なども予定されています。その場で自分の職場のことなども弁護士が相談に乗ってくれるとのこと。弁護士と他労組との交流もできます。ぜひご参加ください。

日時：7月26日（土）13時30分～16時00分

場所：エルおおさか708号室

参加費：1,000円（組合加入歴5年以内の組合員は無料）



家族クラブあさがおの総会にご参加を！

家族クラブあさがおは、組合と組合員の家族をつなぐパイプ役として、親睦会やレクリエーション等を企画し取り組んでいるほか、さまざまな組合行事にも積極的に参加しています。組合員のみなさんのぜひご家族と一緒に総会にご参加ください。

ご家族の方はぜひ家族クラブあさがおの活動にご参加ください。家族の支えがあつてこそ、組合員は活動できるし、組合は強くなることができます。

日時：8月3日（日）10時～

場所：田中機械ホール

（大阪市港区南市岡3丁目6-26）

